

現在の南中学校では、多くの生徒達が意欲的に授業に取り組んでいる姿が見られます。学校自己評価でも、授業に対し96%の生徒が肯定的な回答をしています。これは前年度よりも2ポイント上がっています。近年、授業開始前のチャイム着席やあいさつなど、整然と落ち着いた雰囲気の中で授業が開始され、授業規律や授業の雰囲気づくりへの意識も定着してきています。

本校は「心を育てる授業、互いにつながる授業づくり」を研修テーマとして、基礎・基本の定着やコミュニケーション力、問題解決能力の向上を目指した授業改善に取り組んでいます。

基礎・基本の取り組みとしては、毎日の終学活前に10分間学習「南トレ」を行っています。1,2年生は漢字の読み書き、計算練習、英単語の復習、3年生は5教科の補充学習を行っています。各教科においては、授業の開始時や前半で授業の「めあて」を明確に生徒に提示し、生徒自身がその授業で何を学ぶのかを意識し、主体的に授業に取り組めるようにしています。また、ICTの活用や授業プリントの工夫、小グループやペア学習を効果的に取り入れ、わかりやすい授業の実現のために取り組んでいます。数学・英語では少人数学習を取り入れた結果、生徒の自己評価アンケートには「大勢でするよりも集中できる」「発表しやすい」「質問しやすい」「一人ひとりをより見てもらえる」「少人数で教えてもらえるのでわかりやすい」「アドバイスをもらいやすい」という意見が多く書かれています。また多くの教科で「振り返りシート」などを使って、その授業で何を学んだか、何が次の課題かを振り返る活動も行っています。授業開始時の小テストやプリント学習なども行い、授業に対する意欲を高める工夫を行っています。授業については保護者の95%から肯定的な評価をいただいています。

適切な評価に関しては、生徒93%、保護者96%から肯定的な評価をいただきました。本校は、年度当初に各教科の授業計画や内容の概略・評価の観点、および評価の方法をシラバスで生徒や保護者に明確にしています。また三者懇談で、それぞれの教科担任からの所見を学級担任を通じて生徒・保護者に伝え、生徒自身が努力目標をより明確にできるようにしています。

進路指導における肯定的な評価が、生徒81%、保護者96%ですが、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と答えた生徒が19%おり、昨年度よりも4ポイント少なくなったものの、進路指導に対して不安を抱いている生徒がまだ多いととらえます。1年生では高校調べや職業調べ、2年生では職場体験学習、高校の先生を招いての進路学習、3年生では将来の進路選択を見すえたより具体的な指導を行っています。今後はより一層、生徒自らが将来を見据えた進路選択ができるような、キャリア教育の視点を大切にした3年間の計画的な進路指導を充実させていきたいと考えています。

不登校の生徒については、その要因も一人ひとり違うことから、家庭訪問等により保護者とともに生徒に応じた対応を心がけ、スクールカウンセラーや「ふれあい教室」・北勢児童相談所などの外部機関との連携により、一人ひとりの生活習慣の確立および進路の保障のために、引き続き取り組んでいきたいと思えます。

以上、学力の定着と充実については生徒・保護者から高い評価をいただいています。中には授業が分からなくなって困っている生徒や提出物にきちんと取り組めない生徒達がいるのも事実です。その課題の解決のために学校として努力・研究は続けていきたいと考えています。生徒一人ひ

とりがわかる授業のために、十分な教材研究、授業評価の実施、他の教員との情報交換、テスト（定期テスト・NRT・学力状況調査・その他のテスト）の分析による授業改善を続け、学習活動の実践につなげていきます。また本校は学力状況調査において、家庭学習の定着が毎年の課題となっています。学力の定着を図るために、学習の仕方の手引きや授業での課題の出し方等の工夫を行い、今後も家庭と協力しながら、家庭学習を充実させるようにしていきたいと思っております。

II 心の教育の推進

いじめ・差別を許さない仲間づくりの推進		⑥生徒	先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる。
⑥生徒		③保護者	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。
③保護者		④教師	いじめ・差別を見のがさない仲間づくりに努めている。
④教師			
心を育む教育の充実		⑦生徒	学校では、命の大切さや人権を大切にし、差別をなくすための学習が実施されている。
⑦生徒		⑤保護者	学校は、豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切に育てるようになっている。
⑤保護者		⑤教師	豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切に育てる生徒を育成するために、道徳人権教育の推進に努力している。
⑤教師			

本校では教師と生徒の距離を近づけるため、教室でのふれあいはもとより、休憩時間に教師は廊下などで生徒との対話を心がけています。生徒と教師との関係がよくなることによって、日常会話が増え、授業でも積極的に発言・活動する生徒が増えるといったよい循環が生まれています。さらに些細な変化にも気づく機会が増え、生徒の心に寄り添った指導につながっています。また、担任は学期に一度教育相談を行っています。教育相談の中で様々な悩みや思いを丁寧に聞き、いじめやトラブルの防止にもつなげています。

本校では総合的な学習の時間に様々な人権課題をテーマに人権学習を行っています。部落問題を人権課題の出発点と位置づけ、人権学習を進めてきました。身近にある差別の芽に気づく感性を養い、自分自身を見つめることができるような学習を今後も継続していきます。

今年度、心の教育の充実を感じる生徒は98%、保護者96%、教師97%となっており、高い評価が得られています。今後も日々の関わりを丁寧に大切にしていきます。また、校内研修の中で年間を通して行われる「教師のための部落問題学習」、「一人ひとりの生徒を深く丁寧に育てるための研修」では、教師同士での活発な意見の交換が行われ生徒理解の深まりも感じられます。

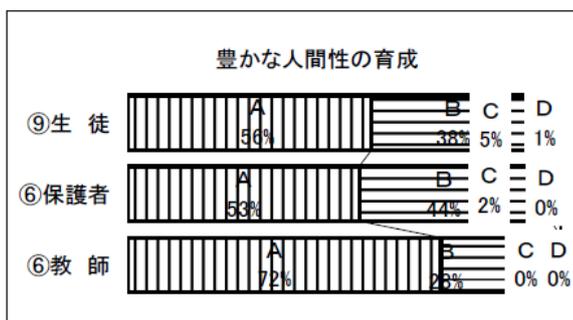
いじめに関しては、マスコミをはじめ、保護者、地域の人たちにも強い関心を持たれています。生徒の中には、何気ないしぐさや言葉づかいで嫌な思いをしたり傷ついたりする者もいます。生徒同士のからかいがいじめに発展していくこともあります。本年度は、校内の人権講演会で落語家の切磋亭琢磨さんを迎え、世の中にある様々な差別や偏見を見抜く力を養い、自分自身と周りの仲間

に思いをはせることができる講演をしていただきました。

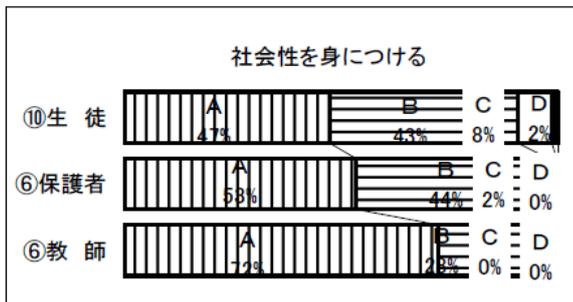
教育相談や生活ノートなどで悩みを教師に訴えた生徒がいましたが、該当生徒や周りの生徒の聞き取りなどの対応を素早く行い、学級や学年集会で全体の問題として考えることができたことにより、生徒に安心感を与えられたと思います。今後もさらに我々大人がアンテナを高くし、一人ひとりの子どもの心の声に耳を傾け続ける姿勢を大切にしていきます。

心を育む教育の充実については、生徒・保護者・教師ともに高い評価をいただいています。道徳教育、人権教育の意義を再認識し、自らに目を向け、自らを振り返り、他者の思いに共感できる豊かな感性を育てていきたいと思っています。

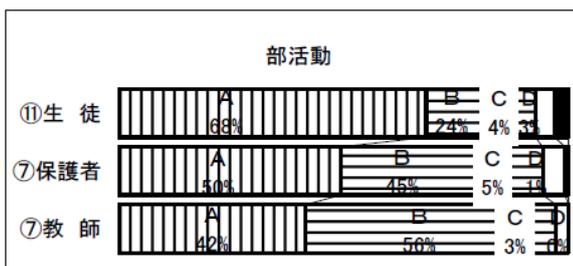
Ⅲ 健康・安全教育の徹底



⑨生徒	先生は、生徒とのふれあいを大切にし、親身になって接してくれる。
⑥保護者	学校は、挨拶に心がけ、子どもとのふれあいを大切にし、子どもが明るく楽しい学校生活を送れるようにしている。
⑥教師	挨拶を心がけ、生徒とのふれあいを大切にし、生徒の心に寄り添い、生徒が安心して、明るく楽しい学校生活を送れるように努力している。



⑩生徒	あなたは、大きな声で挨拶をし、コミュニケーションを大切にして、学校生活を送っている。
⑥保護者	学校は、挨拶に心がけ、子どもとのふれあいを大切にし、子どもが明るく楽しい学校生活を送れるようにしている。
⑥教師	挨拶を心がけ、生徒とのふれあいを大切にし、生徒の心に寄り添い、生徒が明るく楽しい学校生活を送れるように努力している。



⑪生徒	あなたは、部活動にまじめに参加し、目標を持って活動している。
⑦保護者	学校は、部活動で適切な指導を行い、明るく楽しい雰囲気づくりに取り組んでいる。
⑦教師	部活動で適切な指導を行い、明るく楽しい中にも、厳しさのあるクラブづくりに努めている。

学校生活において、全生徒が安心、安全に学校生活を送ることは何より大切なことです。そのために、学校は生徒、保護者との信頼関係の構築がなされなければなりません。アンケートの結果からは、生徒は「先生は親身になって接してくれる。」が94%、保護者は「学校は子どもが明るく楽しい学校生活を送るようにしている。」は97%と概ね満足といった結果となっています。これは、毎月実施するいじめアンケートや、毎学期実施する教育相談によって生徒の不安解消に努めている結果だと思われます。また、日々の生活ノートを通しての担任と生徒のコミュニケーションもその結果に起因しています。そして、スクールカウンセラーや各関係機関との連携も生徒の発達段階に応じた適切な指導ができるように努めています。

しかし、挨拶においては、生徒の「大きな声で挨拶をし、コミュニケーションを大切にして学校生活を送っている」という質問によくあてはまると答えた生徒は47%に留まっています。日常の学校生活においてもすれ違った際の挨拶ができていない生徒もみられ、社会性を身につけるという上においても、学校生活の中で、挨拶の励行を心がける指導を行っていきます。

部活動では、生徒、保護者ともに90%以上が肯定的な評価をしています。今年度から、部活動指導におけるガイドラインが実施され、活動時間に制限が設けられましたが、制限された時間の中、有効的にかつ安全に部活動指導をする意識が指導に携わる教員側にも表れてきています。子どもたちの心豊かな成長のためには、適切な部活動の運用が今後も重要であると考えます。

IV 学校教育力の向上

学校の教育活動	
③生徒	
⑩保護者	
⑩教師	

③生徒	学校へは、毎日楽しくきている。
⑩保護者	学校の教育活動は、全体的に見て満足できる状態である。
⑩教師	学校教育目標、ビジョンは生徒たちの実態から見て適切で、教育活動はその実現に向けてしっかりと取り組まれている。

アンケートの結果、肯定的な評価は、生徒は「毎日楽しく来ている」が91%、保護者は「学校の教育活動は、全体的に見て満足できる状態である」が97%、教師は「学校教育目標・ビジョンは、生徒たちの実態から見て適切で、教育活動はその実現に向けてしっかりと取り組まれている」が97%と回答しています。これらの結果は昨年度とほぼ同じ数値であり、学校の教育活動全般に対して三者ともおおむね満足していると考えられます。

しかし、9%の生徒が、「学校が楽しくない」と感じています。学校を楽しみと感じさせるには、「仲間との関係が良好であること」「授業がわかる・できること」の2点が大きいのではないかと考えられます。

「仲間との関係が良好であること」については、学年や学級、部活動における仲間づくりが重要であると思います。そこで、「いじめや差別を許さない仲間づくり」をより一層進めるとともに、「心を育む教育」を充実させていくことで、生徒が安心して学校生活を送り、仲間とのつながりを感じられるようになると考えられます。さらに、「教育相談」を丁寧に行っていくことで、生徒の悩みや困り感をとらえ、「部活動の充実」をすすめることで、生徒が生き生きと楽しく過ごすことができると思います。また、必要であれば外部機関とも連携をとって早期共有・対応すべきであると考えます。

「授業がわかる・できること」については、生徒がわかった・できたと感じられる授業づくりが重要であると考えます。そのためには、「めあてを明確に示し、見通しを持たせ、振り返りをする授業」、「話し合い・学び合い活動などのペア・小グループを取り入れた授業」、「5つのプロセスに基づいた学習活動」、「視覚支援のためにICT機器を活用した授業」の定着・充実を図り、校内の

研修テーマをより具体的なものにして、研究授業や相互参観などを進めていくことが大切であると思います。さらに、インタラクティブユニットの増加・購入などのハード面の充実も必要であると考えています。

さらに、保護者から理解・信頼を得るために、日々の教育活動の情報の発信と保護者の声を聴くことが大切であると思います。学校側から通信の発行やホームページの更新、フリー参観など積極的な情報の発信を行うとともに、保護者アンケートなど、保護者の思いや願いを聴く機会を確保し、適切に対応していくことが大切であると思います。

V 地域・家庭・保護者との信頼関係の確立

情報の発信	
⑫生徒	
⑧保護者	
⑧教師	
⑫生徒	あなたは、「南風」や「学年通信」等を家の人にきちんと渡している。
⑧保護者	学校は、保護者の相談・思いや願いに対し、適切で誠実に対応し、学校の様子を保護者に「通信南風」等によく伝えている。
⑧教師	保護者の相談や思いあるいは願いに適切で誠実に対応し、学校の様子を保護者に「たより」や家庭訪問で連絡している。
開かれた学校づくりの推進	
⑨保護者	
⑨教師	
⑨保護者	「フリー参観や行事」を通し、地域に学校を開き、保護者等の人たちが学校へ来やすくしている。
⑨教師	「地域に開かれた学校づくり」を目指し、地域や保護者の人たちとの連携を大切にしている。

情報の発信については、肯定的評価の割合が、保護者91%、教師97%という結果で昨年度より保護者の評価が下がっています。学校からは、ホームページや各通信などプリント類、家庭訪問や電話連絡等、日頃から情報発信を行っていますが、再度点検を行い、適切に分かりやすく情報の発信が行われているか確認していきたいと考えます。次に生徒の結果ですが、生徒の18%が学校・教師からの通信物を保護者に伝えていないという現状が判明しました。一部の生徒ではありますが、日頃から教室での整理整頓を心がけさせ、配付物を確実に保護者に渡すことや生活ノートの記入などを細かく指導していき、家庭との連携が密に行われるような体制を作っていきたいと考えております。

また、開かれた学校づくりの推進については、肯定的な評価の割合が教師100%・保護者96%の割合で高い評価を得ることができました。体育祭や文化祭、土曜授業での授業参観や合唱コンクールの公開リハーサルなどの各行事に教師・生徒が一つになって一生懸命に取り組み、参加した結果が好評であったと受け止めています。今後も学校づくり協力者会議など外部の意見を広く取り入れ、学校運営に反映させ、地域に根差したよりよい南中学校を築いていきたいと考えています。